

# はぐくみ

第18号

水戸五中学区青少年育成会  
水戸市立第五中学校内  
水戸市堀町1166-1  
tel.029-251-1414



## ごちねっと 活動協力団体代表者会議

### ごちねっと部会

H30年7月にごちねっと活動協力団体代表者会議を開催しました。この会議は地域親団体が集まり、意見交換をして相互の交流を図ることを目的として開いています。

渡里小、堀原小、水戸五中の各学校から校長先生自ら今年度の取り組む姿勢や子供たちの様子をスライドを使って紹介していただき、「様々な活動から地域に支えてもらっている。」など、ありがたいお言葉をいただきました。意見交換では、「地域全体のグループの顔が見えて安心しました。子供達も地域で活躍できる場があり、自分が地域から大切にされているという気持ちが育ち、やがて、成人した時に地域を守る大人に成長していくと思います。」など、【水戸五中学区あい】で会場がいっぱいになりました。

地域の子どもたちが健やかに育ってほしい、この地域を好きになってほしい。

水戸五中学区のみなさんからの温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



## みなさんは「五中育成会ジュニアリーダーズ」をご存知でしょうか？

青少年部会

「ジュニアリーダーズ」とは、五中に通学している中学生の中で、渡里地区・堀原地区の住民の会が主催するおまつりや行事、渡里子ども会・堀原子育の活動などのお手伝いをしている中学生のことで、平成30年度は1年生5名、2年生4名、3年生7名の計16名で活動しました。全員、文化部や運動部に所属し、もちろん部活優先ですが、ジュニアリーダーズとの活動を上手に両立させています。

毎年、堀原住民の会主催の「夕涼みのつどい」や「堀原風の子まつり」、渡里住民の会主催の「渡里スポーツ大会」、両住民の会主催の市民運動会のお手伝いに参加しています。また、渡里子ども会・堀原子ども会育成会共催の「リーダー研修会」、今年初めて渡里小学校PTA主催の「渡里元気村」のお手伝いもさせていただきました。五中学区内の住民の皆さんも、色々な場面で五中体操服にエプロンを着けた中学生(ジュニアリーダーズ)が、おまつりで大きな声で売り子をしていたり、忙しく走り回っている姿をご覧になったことがあると思います。

過去には外部講師をお招きしてレクリエーションなどの研修会を行うなどしていましたが、近年は、他活動との日程を調整することが難しいのが現状です。

そのような状況ではありますが、水戸市内の育成会の中で、「ジュニアリーダーズ」が地域に溶け込んで活動しているのは珍しく、その中でも「五中育成会ジュニアリーダーズ」は多くのお手伝いのチャンスをいただいています。ジュニアリーダーズの頑張りもあるとは思いますが、やはり、地域の皆さんの理解あってのことだと大変感謝しております。

最後になりましたが、これから中学生となる皆さん! 「ジュニアリーダーズ」に参加しませんか? 一緒に楽しく活動していきましょう。



# 子どものSOSきこえていますか



ルポ 保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル 著/秋山千佳



去る2月6日に県民文化センターで青少年健全育成茨城県推進大会が開催されました。

当日は、◇中学生の主張発表、◇実践活動発表(下妻市PTA連絡協議会)など、盛りだくさんの催しが企画され、その中でも特に、ジャーナリストの秋山千佳さんによる講演「子どものSOSきこえていますか」が多くの出席者の心をとらえました。

秋山さんは、子どもの貧困・虐待・性のリアルにフォーカスして、子どもたちが発するSOSへの受信を我々保護者に問いかけていました。

この現状を伝えるため、「ルポ 保健室」という書籍を発刊しています。

その冒頭で、様々なやせなさを抱える子供たちが最後のよりどころとする場所は保健室であると唱え、さらに「全国津々浦々どこにも必ずある中学校の保健室が、子どもたちを救う最前線として認識され、その力をさらに発揮できるようになることを願う。この社会はそれだけで今よりずっと良くなるはずだから。」と結んでいます。

私たちが普段接するいわゆるどこにでもいる「健全」な子供たちの影で、その家庭環境や人間環境の中で悩み、そのはけ口を知らず不登校になっていく子どもたち。それらの子供たちを抱える学校という共同体の現状を詳細に見聞きすることのできない私たちにとって、この書籍はその一部分を伝えてくれます。

その意味で、保護者を始め地域の方たちにも是非この機会に手に取っていただきたい一冊です。そしてここから何らかの「気づき」があり、結果として子どもたちを救う一助になることを願ってやみません。

## AEDをもっと身近に

地域社会部会



水戸市では市内のセブンイレブン各店舗にAEDを設置するとともに、小中学校の屋外にも、校舎内に入ることなく使用することができるよう、AEDが設置されることになりました。堀原小学校では体育館入口、渡里小学校では職員玄関付近にあります。今のところ、第五中学校には校舎内の職員室前ですが、2020年度までには設置される予定になっています。水戸五中学区青少年育成会・地域社会部が現在作成中の「子どもの安全を守る家」MAPにもAEDが置いてある場所を記載する予定です。

AEDは医療従事者でない一般市民でも使用することができます。小中学生も救急救命講座でAEDの使い方を学んでいます。けれど、講座を受けていない方でも大丈夫。音声ガイドがいていねいに指示を出してくれます。日本では救急車が到着するまでの時間は平均8.5分と言われています。一方、電気ショックの成功率は1分経過するごとに7~10パーセント低下してしまうとのこと。少しでも早く電気ショックを与えることで命を救うことができます。

倒れて意識のない人がいたら、救急車とAEDを。そして、ぜひ救急救命講座にも参加していざという時に備えましょう。

